

- 江原素六とその周辺53  
家庭購買組合と江原素六
- シリーズ沼津兵学校とその人材92  
通訳たちの沼津兵学校
- 企画展のお知らせ

二〇二二年七月

# 沼津市明治史料館通信

通卷110号



江原素六の家庭購買組合出資券 (当館蔵)

# 家庭購買組合と江原素六

家庭購買組合は、第一次世界大戦後の好景気やロシア革命の影響を受けた社会運動の高まりの中、大正八年（一九一九）二月、東京で誕生した。大正デモクラシーの主唱者吉野作造が理事長となった。消費者が生活防衛のため、自ら日用品の流通・販売・購買等を管理すべく立ち上げた組織であり、明治期に生まれて消えていった同様の組合とは違い、現在に続く生活協同組合（生協、コープ）の直接的ルーツであった。

そもそもこのような運動は、キリスト教の隣人愛の理念を背景に一九世紀イギリスで始まったものであり、当初は日本でも、賀川豊彦ら労働運動・農民運動に理解のあるクリスチャンによって推進された。吉野もクリスチャンであり、彼による家庭購買組合は、賀川が指導した神戸消費組合の結成（一九二〇年）と同様

の全国的な動きであった。政治面での役割ともあいまって、「家庭購買組合は吉野のデモクラシー論の社会経済面での実践活動であった」と評される。

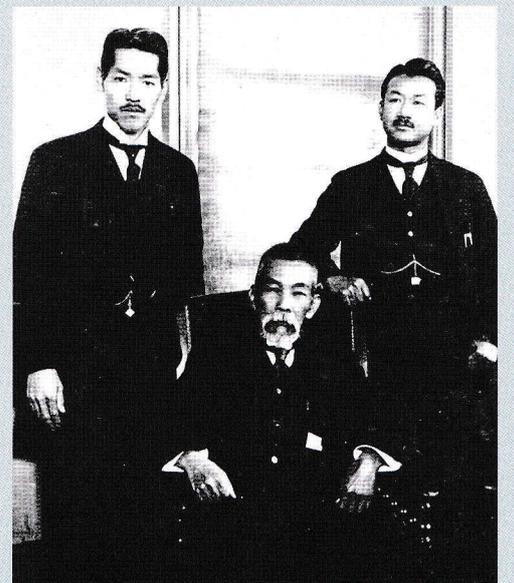
キリスト教界でのつながりによるのであろう、江原素六も家庭購買組合の組合員となった。亡くなる一か月前、大正一年（一九二二）四月二一日付の出資券が現存する。また、同年八月調べの組合名簿（江原文書P11b-40）からは、素六の子次郎も引き続き組合に加盟していたことがわかる。その名簿には、「今年中に二千人を超える組合員数となり」云々とあり、居住区町村毎に氏名が記されているが、著名な人物・団体を拾うと以下の通りである。

「本郷区」波多野伝四郎、佐々木勇之助、星島二郎、古在由直、吉野作造、高島素之、金森徳次郎 「小石川区」姉崎正治、岩波茂雄、鳩山秀夫、石川林四郎、藤田逸男、羽仁もと 「牛込区」桑木巖翼 「麹町区」金沢久、今和次郎、与謝野寛、有島武郎、海野晋吉、女子英学塾 「神田区」清水釘吉、東京基督教青年会、原胤昭 「四谷区」石川千代松 「赤坂区」別所梅之助、小崎弘道 「麻布区」西園寺八郎、浅野応輔、木村久一、

江原次郎 「下谷区」大河内正敏、片山哲、小川劍三郎 「瀧野川町・日暮里町」田辺至、山本鼎、下田将美 「巣鴨・西巣鴨」内ヶ崎作三郎、小林富次郎、田村直臣、元田作之進 「高田・雑司ヶ谷・戸塚」千石興太郎、林文字 「大久保・淀橋・中野・落合」森戸辰男、東京女子大学第一寄宿舎 「千駄ヶ谷・代々木」佐野善作、和辻哲郎、久留島武彦 「渋谷町」松村介石、山室軍平

キリスト教界はもとより、政財界や官界の有力者や学者・文化人が少なくない。一〇名前後置かれた理事の中には、吉野以外に山本邦之助（一八六九〜一九五五）、藤田逸男（一八八六〜一九五六）らいたが、いずれも江原素六とは所縁ある人々である。山本は東京基督教青年会（YMCA）の主事・総主事つとめ、軍隊慰問事業、北米日系人慰問派遣などで江原を補佐した。藤田は、創立以来事実上家庭購買組合を牽引した人であり、吉野没後には理事長職を継ぎ、戦後も生協運動の再建に尽くした。東大学生YMCA時代に吉野の感化を受けた藤田は、やはりシベリア出兵時の軍隊慰問事業などで仕事をともにした江原のことを、「日本の民主化線上で、吉野先生と同じ線上に在られた」と評し、深く尊敬していた。

もう一人、理事に名を連ねた星島二郎（一八八七〜一九八〇）は、藤田と同じ岡



左より星島二郎・犬養毅・服部純雄  
(松永容子氏寄贈)

山県出身、東大法学部・東大YMCAでの吉野門下で、大正デモクラシー運動の担い手となった。後に弁護士・衆議院議員となり、戦後は大臣・議長までつとめることになったが、若き日のリベラルな政治姿勢は、吉野の薫陶以外に、岡山中学校時代の恩師服部純雄校長や、親友でもあるその息子服部純雄からの影響も考えられる。服部純雄は沼津藩士の子であり、江原素六とともに大正二年（一九一三）渡米、日系人排斥問題解決に尽力したクリスチャン政治家でもあった。

家庭購買組合と江原素六の周辺には、キリスト教と大正デモクラシーをめぐる豊かな人脈があった。  
〔参考文献〕『生活協同組合運動』（日本キリスト教歴史大事典）、藤田逸男『賛育会物語』（一九五三年）、木村正枝『消費組合小史』（一九八〇年）、『一粒の麦』いま蘇える星島二郎の生涯（一九九六年）  
(樋口雄彦)

消費者の爲に、消費者が作り且つ経営する、消費者の消費組合は、我が家庭購買組合です。

家庭購買組合に加入せらるゝ方々へ

人類は悉く消費者であり、消費者の身方なる家庭組合は、即ち人類の身方でありませぬ。

家庭購買組合  
本部 三三三 電話 五五六七  
支店 三三三 電話 五五六七

## 家庭購買組合のパンフレット (当館蔵)

岩波茂雄、鳩山秀夫、石川林四郎、藤田逸男、羽仁もと 「牛込区」桑木巖翼 「麹町区」金沢久、今和次郎、与謝野寛、有島武郎、海野晋吉、女子英学塾 「神田区」清水釘吉、東京基督教青年会、原胤昭 「四谷区」石川千代松 「赤坂区」別所梅之助、小崎弘道 「麻布区」西園寺八郎、浅野応輔、木村久一、

# 通訳たちの沼津兵学校

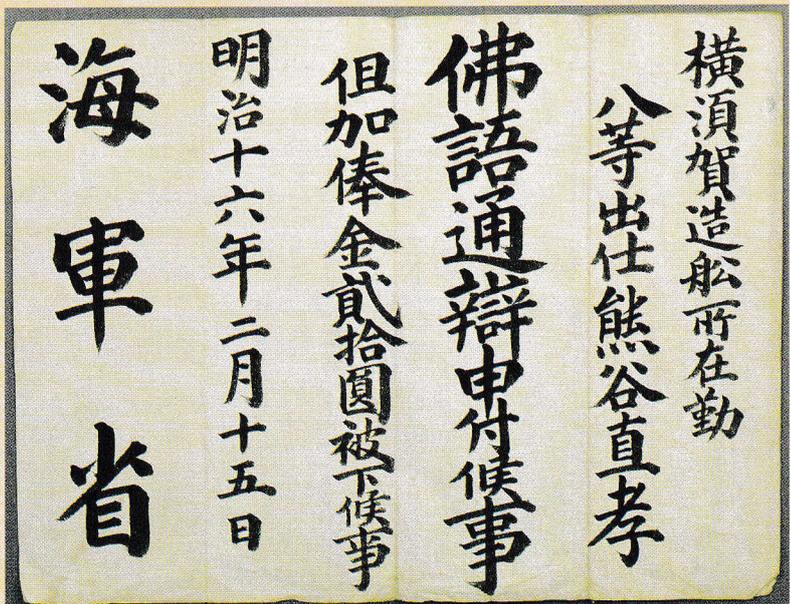
江戸時代、幕府は長崎にオランダ人・中国人との通訳を担当する世襲の通詞を置いていた。幕末の開国・開港は、オランダ語・中国語以外の語学、すなわち英語・フランス語などの必要性を一気に拡大させ、新たな語学力を身に付けた通訳の需要を生み出した。当初は長崎のオランダ通詞らが英語を学ぶことによってその役割を果たしたが、やがて唐通詞（中国語の通訳）やそれ以外の一般の幕臣らも新規参入するようになった。また、文書の翻訳には旧来の洋学者が従事する場合も多かったが、会話における通訳には若い世代の新たな人材が加わった。

維新後、そのような通訳たちは、明治新政府に出仕した者、静岡藩に帰属した者、出身地である長崎に留まった者などに分かれた。フランス語通訳には榎本武揚軍に加わったフランス軍人に付き添い箱館戦争に参加した者もいた。静岡藩士を見てみると、長崎オランダ通詞の家柄出身の通訳としては、名村元度（五八郎）が静岡学問所教授、西成度（吉十郎）が使番・目付助・小島添奉行・権少参事・刑法掛に就任するなどの足跡を残している。外国官一等訳官となった石橋政方（助十郎）、東京運上所通弁御用となった額川君平（雅文）など、籍は静岡藩に置きながらも駿遠に移住せず、すぐに新政府に出仕した者もあった。

また、横浜語学所でフランス人から直接教育を受け陸軍伝習や横須賀製鉄所での通訳の役割を期待された者としては、長田銈太郎が静岡学問所、神保長致・伊藤隼・小野清照が沼津兵学校の教授に就任した。名村はすでに英語を会得し、静岡学問所でも英語を担任したが、同学問所の学科には、英仏語のみの沼津兵学校とは違いドイツ語・オランダ語もあったので、オランダ通詞以来の力を発揮する機会も残されていたかもしれない。ただし、地方政権にすぎない静岡藩には外交・通商の仕事はなく、語学教師としての役割しかなかったが。

沼津兵学校には長崎オランダ通詞の出身者はいないが、西成度に師事し外国奉行支配通弁出役をつとめたこともある高島茂徳など、彼らに育てられた英語習得者が存在した。アメリカ人クラークを雇い入れた静岡学問所では、彼の通訳・助手が新たに育成されるといった側面があったが、沼津兵学校のほうにはネイティブによる学習機会はなく、本格的に語学能力を磨く術はなかった（沼津兵学校資業生芳賀可伝は静岡学問所に転任し、クラークの「訳官」をつとめたという）。しかし、それ以前の経験やその後の海外留学などを活かし、明治政府出仕後に通訳の仕事を行った伊藤隼（陸軍省中等通弁）、熊谷直孝（海軍省仏語通弁）らが出ている。さらに、語学教官や翻訳の仕事に従事した者にまで幅を広げれば、乙骨太郎乙（大蔵省翻訳局教頭）、山内勝明（外務省横文翻訳課・洋語学所出仕）などもある。なお、最終的には技術者や外交官などになった場合のほうが一般的であり、通訳だけを専門にした人物は皆無である。

（参考文献）木村直樹「通訳」たちの幕末維新（二〇一二年、吉川弘文館）、三上昭美「明治4年外務省職員履歴書1」（『中央大学文学部紀要』第150号、一九九三年）、『幕臣福田重固・高島茂徳兄弟』（樋口雄彦）



熊谷直孝の海軍省仏語通弁辞令（当館蔵）

# 企画展のお知らせ

## スルガの古墳 ～高尾山古墳が語るもの～

会期 8月1日(水)～9月30日(日)

観覧料 大人200円 小人100円 (市内の小・中学生は無料)

〈イベント〉

### ◆ギャラリートーク

日時 8月4・11・18・25日、9月4日 11時～

8月は沼津市文化財センター職員が展示解説します！誰が解説するかはお楽しみ。

9月4日は、博物館実習生が登場します。温かい目で見守ってください。

申込不要 展示会場でお待ちしています。

### ◆子ども古墳教室

日時 8月19日(日) 対象 小学生(4～6年生)

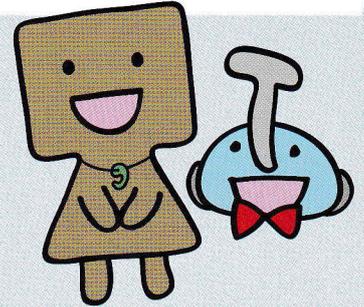
講師 沼津市文化財センター 池谷さん

申込 7月24日(火)から 当館まで電話または直接

### ◆体験講座 勾玉づくり

日時 8月11日(土)10～12時 対象 小学生

申込 7月24日(火)から 当館まで電話または直接



明治史料館の夏のイベント

夏休みは明治史料館へ集まれ!!

### 中学・高校生のための 1日学芸員体験講座

日時 8月9日(木) 10:00～15:00

内容 ①講義…「博物館」と「学芸員」  
②見学…展示室・館内施設の見学  
③実技…博物館資料の取り扱い方

持物 筆記用具・昼食・動きやすい服装

申込 7月24日(火)9:00～電話にて受付  
(先着10名)

### 戦時中のくらしを体験しよう

日時 8月8日(水) 10:00～15:00

対象 市内の小学生4・5・6年生

会場 当館講座室・駐車場

内容 「すいとん」を作って食べる  
戦時中の話を聞く

高角砲部隊の弾薬庫跡の見学

\*雨天の場合はビデオ鑑賞

持物 筆記用具、軍手、タオル、お箸、お椀、飲み物  
汚れてもよい服装(保険料15円)

申込 7月24日(火)9:00～電話にて受付(先着30名)

沼津市明治史料館通信

第110号

平成24年7月25日

編集・発行 沼津市明治史料館  
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL055-923-3335

FAX055-925-3018

印刷

みどり美術印刷株式会社

### 平和を考える戦争史跡めぐり

日時 中学生 8月3日(金) 8:50～16:00

親子 8月5日(日) //

内容 沼津市内に残る戦争史跡をマイクロバスで回ります

持物 弁当、飲み物、筆記用具、懐中電灯、タオル、汚れてもよい服装

申込 7月24日(火)9:00～電話にて受付(各回先着23名)